



鷺野 聡明 議員

遊休資産の早期整理処分を

質問

愛西市が行政改革を進める中で、自主財源の確保は重要であり、また急務である。使わない財産の売却は早期に進めるべきだと思いが、市の方針は。

また、遊休不動産の実態について、場所は何力所か。筆数、面積、評価額は。

総務部長

土地の実態は、普通財産では、72力所88筆で、面積は2万3千246㎡、評価額は4億6千151万4千120円。建物は、2力所で5棟ある。

このような土地を売る売らない、また貸す貸さないというのを明確にするような事務事業を進めていきたい。



草生えイメージ

既に市は、普通財産の売り払い要綱を定めているので、決定された後には、この要綱に沿って進めたい。

質問

愛西市が用地買収を進めるほど、また土地の寄附を受けるほど、市の固定資産税対象面積が減り続けている。また遊休不動産の毎年の草刈り委託費用、経済課の職員による草刈り作業など、維持管理は非常に無駄が多い。平成22年度予算で防草シート敷設工事419万6千円とあるが、この面積の大半が遊休不動産ではないか。

こういった遊休不動産に

つまでも金をつぎ込むことは本当に問題ではないか。

副市長

市の遊休資産、土地について、今後、財産台帳も整備してきたので、処分や有償貸し付けなど、有効な活用に向けて努力していきたい。なお処分するに当たっては、財産の売り払い要綱を持っているので、基本的には公売で適正に

臨んでいきたい。

市長

議員の皆さんからいい提案、いい話があったら聞かせてほしい。資産の売却には、家庭でもそうだが、田畑の守りをするのも、草の守りをするのも同じ様に変である。タイミング、状況を判断しながら今後とも進めていきたい。

行政が先頭に立って美化運動を

質問

愛西市は毎年11月にごみゼロ運動を実施し、また多くの町内でも環境保全に取り組んでいるが、きれいなまちというにはほど遠いという感がある。行政が先頭に立って美化運動をする考えは。

真の環境文化都市愛西を目指すし、市職員、市議会、市関連団体や市民参加のボランティアによりきれいなまちづくりに取り組んだらどうか。

総務部長

職員団体としてのボランティア活動参加は、個人的にはあるかもしれないが、職場を挙げて行っている組織は残念ながらない。

しかし、環境づくり、雰囲気づくりの醸成が必要ではないか。自分自身としては、勇気を出して、職員に投げかけて募っていききたいと思う。